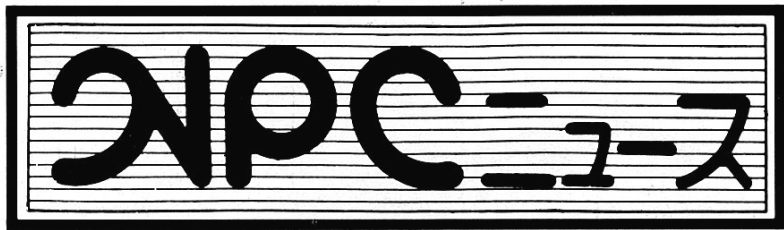


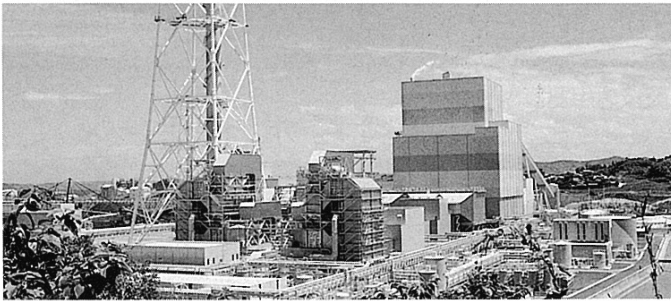
悩むのが好きな人間はいまい。しかし、悩みを持つことで大きな成長はしなくなる。心がいつも注意深く活動しているからである。大切なことは視点を変えてみる事だ。つまり「悩んでも悩まない」心境になれば、もうこわいものはない。



＝松浦＝

九電松浦 1号機、営業運転開始

かねてから建設中でした、九州電力株式会社松浦発電所(長崎県松浦市)1号機がさる6月30日をもって営業運転を開始しました。当社は昭和59年末の先行工事着手以来約4年半、同発電所建設に携わってきましたが、今後は保修体制のもとで尽力していくこととなります。



△松浦発電所1号機

松浦発電所は、石炭火力としては我が国最大出力の70万KWを誇る海外炭専焼石炭火力発電所で、幾多の最新技術(DSS機能・タービンEHC及び電算機制御の排煙脱硫装置の採用など)を導入した高効率発電所です。また、各建物や装置などはペールブルーを基調としたカラーコーディネートが施され、敷地内の3割近くを占める緑化と共に「自然の中の発電所」としても多くの注目を集めています。当地は近い将来、同規模の2号機と電源開発株式会社1、2号機

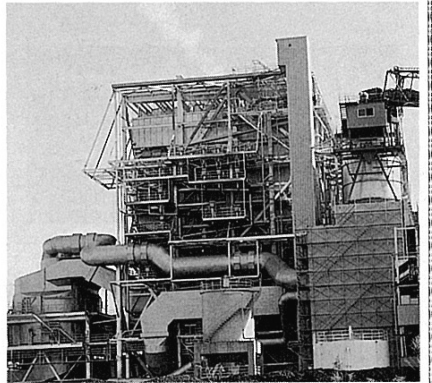
- (出力各100万KW、1号機は平成2年7月運開目指し建設中)を併せて、発電容量340万KWの一大電源地帯となり、電源多様化の一翼を担う予定になっています。
 - また、当社「松浦建設所」は従来どおり継続して工事を行っており、現在は二次発注作業所、電発ボイラ作業所において各種付帯工事等を鋭意行っています。
 - なお、九電1号機運開までの主要工程は以下のとおりです。
- | | |
|-------|---------------------|
| 62年4月 | 脱気器吊上げ。名称を作業所から建設所に |
| 7月 | ボイラーヘッダ揚げ |
| 8月 | 復水器据付開始 |
| 10月 | 発電機オンベース |
| 63年2月 | タービン・発電機ロータ挿入 |
| 6月 | 受電 |
| 11月 | ボイラ火入れ |
| 12月 | タービン通気 |
| 元年1月 | 発電機初併列、排脱通煙 |
| 2月 | 約1ヶ月間の機械停止、点検試運転 |
| 6月 | 営業運転開始 |
- 59年12月 当社、松浦作業所を設置(先行工事着手)

＝東ソー工場所＝

無事故で工事完遂

4号ボイラ竣工する

かねてから建設中でした東ソー株式会社南陽工場(山口県新南陽市富田)の自家発電設備(第2発電所内の第4号発電設備)が6月30日完成、運転を開始しました。



△東ソー第4号ボイラ

この工事において当社は、石川島プラント建設株式会社殿から4号ボイラ据付工事を受注し、昨年6月の工事所開設以来、鋭意作業を進め、徹底した安全管理・品質管理のもと、無事故で工事を完遂、今回の客先引渡し・運転開始に至ったものです。今般完成したボイラは、蒸発量毎時600t、SR自然循環形屋外式(再熱式)で、燃焼方式は微粉炭C重油50MCR混焼です。

当工事所では、ピーク時には協力会社を含め、約150名が従事しました。また、無事故無災害の工事に尽力頂いた協力会社12社には7月17日、当社から感謝状が贈られています。

なお、主要工程は、以下のとおりです。

- 昭和63年6月 工事所開設
- 7月 ボイラ鉄骨立柱
- 9月 ドラム揚げ
- 11月 水圧
- 12月 受電
- 平成元年2月 火入れ
- 3月 フリーブロー
- 安全弁封鎖
- 通気
- 6月 運開

＝松浦事業所・保修事務所＝

新社屋 竣工する

〔7月27日＝松浦〕当社松浦事業所の新社屋がこのほど完成し、7月27日に竣工式が行われました。



竣工式には、岩佐松浦市長をはじめ九州電力株式会社松浦発電所の興梠所長、西九州共同港湾株式会社池田社長、当社の久米社長、東常務、赤司経理部長、浦島火力部長、松浦建設所の舟越所長、松浦事業所の速水所長他多数が参列し、午前11時から神事が行われました。

新社屋は国道をはさみ発電所の南側に位置し、事務所のすぐ近くに松浦鉄道の「松浦発電所前駅」があります。敷地面積約3820㎡、総床面積は約842㎡の鉄骨造2階建の建物で、工事は6月いっぱい完了し、7月から入居・使用されています。今後はこの新社屋を基地として



△竣工した松浦事業所新社屋
同発電所の保守業務に従事していくこととなります。

随想 出張偶感

「アメリカ」と云うと、通常ニューヨークやワシントンなど大都會の話に花が咲き、私は専ら聞き手に回っています。実は私も2度ほどアメリカに行く機会がありました。西海岸の田舎町と砂漠を走り回った経験しかなく、面白い話はありませんが、このアメリカ出張の思い出を紹介しましょう。昭和62年、地熱調査団に参加しロサンゼルスから一路南へハイウェイを突っ走り、南の砂漠インペリアルバレー地区を見学、サンフランシスコ北部のガイザー地区を調査し、最後にリノ市から東へ車で7時間ほど砂漠を走ってペオワエ地区を見学したのです。アメリカは資源の豊富な国で、車窓からは小さな油田があちこちに見え、ポンプで油を汲み上げています。一方、我々の調査の一つである、熱水を利用するバイナリ

一発電所やトータルフロー発電所は砂漠の真ん中に建設されており、実験段階から実用化へと着実な歩みを見せていました。また、インペリアルバレー地区では見渡す限り発電用の大型風車が立ち並び、その数は4千基にも及ぶとのこと。このように、あらゆる面で資源の有効利用に努力している姿を見ることができたのでした。ところで、サンフランシスコのガイザー地区は世界最大の地熱地帯で、ガイザーロックの丘の上から見渡せば各所に地熱発電所の白煙がたなびき、その規模も21ユニットが建設され、総出力150万KWに達しています。ここの地熱蒸気は不純物が多く、これを除去するために復水器改造や薬品注入のテストが積み重ねられ、環境問題に対して最大級の努力が払われているのには感心しました。



取締役火力部長
浦島 堅 吾

また、我々の調査した発電設備30ユニットの内、19ユニットの主要機器に日本製品が導入され、日本企業の進出に驚かされました。砂漠の中のワプスカ1200KW地熱発電所は妙齢の女性オーナーと職員1名で運転され、利益を上げているとの事。またスパークス市の地熱研究発表会では、環境問題のテーマで女性エンジニアが多数参加し、色々な面で地熱分野への女性進出が目立っていました。

話はかわりますが、カリフォルニア南部カスタメサの田舎町に機械メーカーのC社があります。私は昭和51年に工場試験の立会いで、2週間ほど滞在しました。この会社は航空機部品など付加価値の高いものを製作しています。最初に会社へ着いてみると、あまりに小さな町工場で、作業員もシャツ姿。緊急な仕事を依頼しても、5時には全員退社するのをみますと会社の経営に疑問を抱きました。また工場試験の方はテスト要領が日本と違うので、その都度打合せ調整しそのうえ機械を再加工した為、予定を変更し2週間この町に釘付けになってしまいました。ところで、この会社の作業手順書の一部を見せてもらいましたが、これが実に立派なものが出来ており、実際この手順書どおりに作業管理を徹底しているとのこと。また、工場試験中は猛暑の中であるのに、防護マスクを絶対に外さない習慣がついているのには感心し

ました。また、私に應對してくれたエンジニアの方がたは資料を的確に提示され、優秀な技術陣を擁しているのを実感しました。一方、この会社では10時と3時がコーヒーブレイクで、みんなに大きなドーナツを配り家族的な協和が計られていたようです。要は、適切な作業基準書を作り、これを確実に実行する社員がこの会社を世界へ飛躍させているのだろうと思います。現在我が社では、将来のビジョンを踏まえて経営対策会議が設置され、「受注拡大」と「原価低減」を2本の柱として立派な計画が立てられるものと期待されています。これを全社一丸となって実行することが大切です。また、8月は電力の重負荷期です。作業管理には万全を期し、特に、安全及び品質管理の基準書を確実に守ることが我々にとっても一番重要であると思います。